

《賛同署名のお礼と報告》

新しい生活様式を画一的でなく、年齢層毎の行動指針を

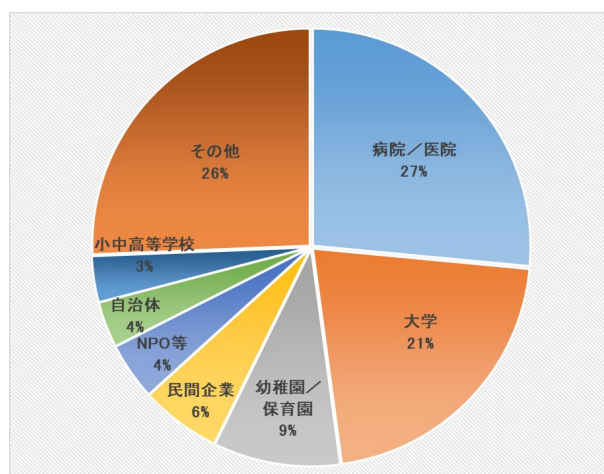
— 休園、休校を早急に解除すべき —

5月25日に当学会ホームページにて掲載いたしました「新しい生活様式を画一的でなく、年齢層毎の行動指針を— 休園、休校を早急に解除すべき —（代表理事 仙田 満）」について、多くの方々から賛同署名をいただき、6月10日現在、117名の署名が寄せられました。この署名は、関係各団体に呼びかけ、国の関係省庁に提出するべく準備を整えております。

賛同署名にご協力いただき、ありがとうございました。

※賛同署名については、現在も受付しております (<http://www.children-env.org/>)。

《賛同署名 117名の所属機関別内訳》



《寄せられたコメント》

乳幼児期の子どもたち、学童期の子どもたちの心理的な安心安全と感染予防の在り方について、悩んでいる保育者や教師は数多くおられます。この呼びかけによって、子どもの心身の育ちと安全を保障する指針により誰もが安心して保育や教育に当たれるように願い、呼びかけに賛同いたします。/感染と経済のバランスが問われたのと同様、感染と教育のバランスは独立してより強く問われるべきである。そして今、第二波以降への対応方針を明確に定めておくべきである。/公園遊びが積極的にできる親子と不安で戸外に出られない親子の格差を感じています。子どもの年齢や発育に適したもっとわかりやすいガイドラインが必要です。子育て支援センターが再開して来所した親子は人見知りがありますが、少しずつ取り戻しているように思います。/行政や他関連団体との連携を望みます。/横浜市の小児科医

です。今回のコロナの診療の手引きや社会対応、すべて成人中心で進んでいて小児科医としては戸惑うことばかりです。少しずつでもお子さんがありのまま過ごせる社会になることを願います。/2月29日の学校休校要請は、専門家会議によるものでなく、安倍首相の独断で会ったことは記憶に留めるべきです。/こどもの成育は一様ではない。こどもにとって貴重な時期を無駄に過ごさせるようなことはしないでほしい。/乳幼児の育ちを支えようとする者に、迷いと混乱を与える状況です。今こそ、子どもたちにとって必要な関りを、これまで以上に勧めていかねばなりません。/愛着形成に大事な乳幼児期～低学年の時期に五感を使って他者を認知していくことができなくなることで、徒党を組み、創造的な活動を活発に行う高学年の時期に群れ遊ぶことができなくなることによる心身の発達への計り知れないダメージを危惧しています。おとなとは一線画して仲間とともに新しい文化創造に向かう思春期の中高生たちの活動が著しく制限されていることが、心の闇を広げないかという心配もあります。取り組みの中で、現場の子どもたち、親たち、青年たち、教師や保育士たちからも「感染症以上の心配ごと」が寄せられています。声明の「年齢層ごとの行動指針」を示すことと合わせて、世代を超えた子育て・子育て活動の指針も必要になっていると考えています。この声明への賛同が広がることを願っています。/元々子供の発達を促すのは、養育者との密な触れ合いで、成長につれ社会性を獲得しながら徐々に子ども同士での適切な距離を身に付けていく。過剰な感染対策が子どもの健全な発達を阻害しないか危惧する。/保育士をしています 保育中はマスクをしています マスク無しで子どもたちと笑い合いたい その一心です 子どもたちが先生たちとお友達と関わりあいながら 育って欲しいです。/子どもたち間の社会を奪うことが、間接的に家庭内での子ども虐待（性虐待）の増加へと導く側面も懸念されています。/こどもの立場に立脚した初めてのメッセージをありがとうございます。/子どもには、大人と同じ生活が不要な部分も解明されようとしています。情報を開示して、早急に対応すべき。/コロナ禍に対し画一的対応でこどもが犠牲になる現状を危惧しております。/二度と戻らない貴重な時間を送る各世代の活動を大きく制限することに対し慎重に判断されなければならないと思います。/発達障害を専門とする小児科医の立場から賛同させていただきます。幼少期の集団行動体験の不足による後天性発達障害児の増加、これによるさらなる成人発達障害者の増加に起因する数十年後の我が国の国力低下を危惧いたします。/「たくさん知ること」が良いのではなく、深く考え行動変容を促す学びの発想が求められていると考えたい。/街中の「森」＝緑地を守り通したい。/特に子どもたちにとっては、肌と肌を触れ合わせる体験、様々な経験が本当に大切です。子どもの心身の健全な発達が危惧されます。多角的な視点、長期的な視点でのガイドラインの策定を強く望みます。/とても素晴らしい内容でした。この情報を養護教諭や保育士の方々と共有して、学校健診・保育園健診に生かせたらと思います。/子どもたちの自己肯定感、他者を信頼する生きていくうでの根幹に関わることだと思えます。子どもたちに何かを貸す事をやめてほしいです。根本的に、このコロナウイルスは子どもは重篤化がみられなさそうだとわかっているので、子どもたちへの制限はとても理不尽なものだと思えます。教師の

たも疑問を持ってはいないでしょつか。/新しい感染症の流行に人類は翻弄され、常に人と人が一定の距離を保たなければならない『新しい日常』という名のこれまで経験したことのない生活様式が求められるようになりました。ここで忘れてはならないのは、幼い子どもたちのことです。赤ん坊は、親をはじめとした周りの大人の手助けがなければ、その生を維持することができません。成長に伴いできることが少しずつ増えてますが、それでもたくさんの手助けが必要です。手助けとは字の通り、手で触れて助けるということです。服を着替えるのも、食事も、トイレの練習も、嬉しい時に受け止め辛い時に抱きしめられることも、手を使って全身を使って受け止められることなしに、人の心身の成長と安定は守れません。翻って考えると、人は他者に身を委ねる『信の構造』を根本に秘めているということです。家庭の愛情のもとに育った子どもは、やがて巣立ちに向かいます。居心地の良かった家から一歩外に出て、仲間と出会い、群の中で自分を試す時期の到来です。人間もまた動物ですから、戯れ合い、ふざけ合い、遊ぶことを通して、様々なことを学んでいきます。こうした経験は、人が生きていく上での土台となり、生涯にわたる人の個性や感受性のあり方を決定付けて行きます。これからの社会を生き抜くためには、ハードスキルとソフトスキルの両方が必要であると言われていています。知識は後からでも得ることができますが、物事を面白がり試行錯誤したり、協力したりする喜びの獲得には、幼児期に仲間と関わり合い、触れ合って、遊びながら得る体験が大きく影響して行きます。人間が生き物であり、その生の過程に人との触れ合いが欠かせないという視点をしっかり持った上で配慮していかないと、子どもの成長を大きく歪んだものにしかねないと、大変危惧をしています。子どもに罪はありません、大人たちでできることを精一杯やっていくためにも、年齢層ごとの行動指針が必要に思います。/[大地保育の心] 子どもを大切にするとする事は人としてであって私たちの[大地保育]は、大人も童心人となって子どもと共に独立国(子どもの園)を創造するというのではないかと思います。*いつでも*どこでも*いつまでも子ども心忘れずに!"名の無い遊び""どろんこ遊び"等々を大切にしたいと思います。/こども達に寄り添った、こども達の成長のことを、しっかりと考えた、年齢別の行動ガイドラインをつくることを希望します。/今こそ、田畑で楽しもう!!/子どもたちの成長には、「群れて遊ぶ」ことが必要不可欠です。また本能的にそれを求めていると思います。無理して距離を取らせることの弊害が必ず出てくると思っています。年齢・発達に応じた「新しい生活スタイル」を提示していくことが大切だと思います。/勇気ある声明に、深い尊敬を持って、賛同します。子どもに、COVID-19発症時の、学校、園の対処(2週間の学校、園閉鎖など。それもいずれ、もっと緩めるべきと思います)を決めて、責任持って、子どもの権利を守るべきと思います。/こどもたちにとって、遊ぶことは、生きることです。体験すること、体感することを通して学び、成長します。ウイルス対策が長期化することが懸念される今、この3ヶ月間の休校措置がこどもたちにもたらした影響を検討し、ブラッシュアップした対応をしてほしいと切に願います。/私どもでは、特別支援学校でもあり、乳児、幼稚部、小学部、中学部と年齢差が大きく、対応方法も異なります。年齢ごとの行動指針は大変に重要と感じています。また、音声ではなく手話

で会話をしますので、飛沫は少ないと思いますが、対面でのコミュニケーションとなります。このあたりも対策も一般とは異なるように感じています。よろしく願いいたします。/本学会の会員であることをあらためて誇りに思いました。今後ともよろしく願いいたします。/今年度のこども達は4月からの自粛において園や学校の生活・友達とのコミュニケーションが殆ど取れていなく、今後其の影響はかなりのモノになると考えられる。せめて9月からの新学期体制など、ゆとりある計画を示して欲しいモノである。/子どもにとって遊びや学びは、主食と同じです。主食が食べられないと、成長できません。コロナに打ち勝つために、遊びや学びが大人と比較できないくらい必要です。/持続可能な開発目標 (SDGs) の理念は「だれひとり取り残されない」です。上から目線ではなく、子どもの視点に寄り添った感染予防策が必要です！/こどもたちと見守る先生方のケアを含めて議論していければと思います。/仙田満先生、ご無沙汰しています。ちょうど、6月から幼稚園が再開し、身体的な距離は大切だけど、心の距離を縮めよう、と発信したところです。ですが、幼稚園が始まってみると密接・密集は避けられず、学齢に応じた個体距離を保つ生活様式の指針をお示しいただけると助かります。/「コロナウイルスへの感染」に関するリスクだけでなく、子供の育ちに関するリスクも考慮した方針の策定をお願いします！！/日本中がコロナの恐怖に怯え、子どもの教育、保育が後回しにされている現実を、今は受け止めるしかないのか、と悶々としておりました。マスクをした子どもたちの顔がなかなか覚えられず、保育者の満面の笑みもマスクで隠され、ハグやタッチも憚られる現場。オルガンを弾きながら新しい歌を教えても、保育者の口元が見えないので、なかなか歌い出しのタイミングがつかめないでいる子どもたち。歌の指導の時、子どもたちから離れてお話しするときは、フェイスシールドのみでいいよと、工夫はしてるつもりが、何とじれったい事！子どもの成長の大切な時期を託されている私たちだからこそ、今大切な事を見極めて行動したいと思いました。/クリニックのホームページにも転載させて頂きました。こども視点での鋭い論説です。ありがとうございました。/小児科医として一律の社会的距離をこどもたちが、しいられることには、違和感を持っていました。検討すべきことは多いと思いますが、この方向での指針を組み立てるべきと考えました。/早急にこどもたちの休園、休校が解除されることを望みます。/これからもしかすると数年間、近くにいても一定の距離以上近づけない、グループ行動を禁じられる、など安易に大人と同じ行動を求められた子供達はどうなっていくのか、非常に心配です。年齢ごとの発達段階に準じた、細やかな「with コロナ」時代の指針が必要と思います。/子どもたちが子どもたち同士の集団の中で成長することと、感染の拡大の防止を両輪で進めるだに賛同いたします。/子どもの健全な発達に最大限配慮した指針づくりをお願いします。/

休校において、学力のことばかりが報道・問題視されていることに低学年児を持つ親として違和感を感じていました。年齢によって抱える課題や問題は変わってきます。低学年児童や未就学児は、子供同士の関わり合いにより体と心の健全な発育が出来ると思うので、年齢層毎の行動指針に全面的に賛同で、1日も早く実施される日を心待ちにしています。/子ども

の年齢、性格、慢性疾患があれば持病、などを考慮した対応が望まれます。多くの子どもは体力も落ち、精神的にも不安定になっています。取り返しがつかなくなる前に、普通に近い生活に戻す必要があります。/感染予防に努めながらも、最大限子ども達のまずは遊びそして学びを、守ることも潰してしまうことも、一重に大人達の考えや行動によってしまうのだと思います。/子どもたちが楽しく生活し、学ぶ環境を整えるのは大人の責務です。子どもには子どもの優先順位があります。健康への影響が懸念されないのであればなおさらです。/子どもの学ぶ機会を損失しないよう、安易な休校措置をしないように望みます。

子ども達の発達を危惧しておりましたので、活動ありがとうございます。賛同致します。/3密を避けること、全てを否定するわけではありませんが、過度に避けること、過敏になりすぎることは違うと思っています。そのような思いで賛同しています。いつもの生活、いつもの喜び、それを失わず、安全で安心して過ごしたいと思います。子どもも自分も。/やっと始まった学校生活！と、楽しく学校に通ったのも数日、小学校から感染者がでました。再度休校、自粛生活が始まる中、子どもの権利を大人が見失わないでほしいです。/子どもたちは仲間と過ごすことが成長の糧です。/子どもたちの健やかさ、幸せが保障されるようお願い、賛同いたします。/なんでも一律に、そして、フェイスカバー着用での会話、ソーシャルディスタンスの指導過剰な反応に、子どもの心の事を考えると、とても苦しく思います。/命は大切だが、そのリスクよりも未来失うものが怖く感じています。